書店から消えた本

絶版回収本展示会



令和８年度　日本大学文理学部資料館展示会

開催期間　2026.9.18（金）–12.4（金）

【公式】ホームページ

開館時間
平日　10時～17時
土曜　13時まで

特別開館日
桜麗祭期間　10時～17時
10.31（土），11.1（日）

休館日
日曜，9.19（土），10.30（金），
11.2（月），11.3（火）

入館料：無料

主催
日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館

協力
安形　輝（亜細亜大学）

会場
日本大学文理学部資料館
図書館棟１階

連絡先
03-5317-8590

所在地
東京都世田谷区桜上水
3-25-40

交通案内
桜上水駅（京王線）より徒歩８分
下高井戸駅（京王線・東急世田谷線）
より徒歩８分

日本大学文理学部資料館

※ポスター・チラシには生成AIを使用しております。

書店から消えた本：絶版回収本展示会について

この展示会では、「売れなくなった」という以外の理由で新刊書店の棚から消えてしまった本（および雑誌の付録）37点を紹介する。展示を通して、情報の真偽や著者の信用における日本の出版業界が持つ規範、さらには出版に影響している制度や慣行などについて、その一端を垣間見ることができるはずである。なお、一点を除いた展示物のすべては、協力者である安形輝（亜細亜大学図書館長）のコレクションである。

本の表紙だけを眺めてもその意義が伝わりにくい。そのため、個々の解説文において経緯と関連情報を詳細に記した。通常の展示会と比べて解説文の分量が非常に多くなってしまったが、この点ご理解いただきたい。なお解説文では敬称略としている。

解説文で頻出する「刷（すり）」とは、同日に印刷・発行された同一タイトルの書籍のまとまりのことを指す。最初に発行されたまとまりを「初刷（しょずり）」という。例えば初刷を1000部発行した後、さらに需要が見込めるならば、新たに2刷750部、3刷500部と印刷してゆく。この間に誤記や誤植などが修正される。したがって、刷が違えば一部箇所で異なった表現が用いられていることがある。なお、章の追加や削除など改訂箇所が数頁以上にわたる場合は「版」の変更として表記される。

展示の本のうち16点は「（売れたわけではないのに）初刷だけ書店から消えた本」である。これらの多くは、誤記・誤植を理由に回収され、修正刷と交換された。なかには回収を行わず、説明なしに修正刷を市場に流通させたというケースもある（『野球しようぜ!』）。誤記・誤植の深刻さには幅があり、毒キノコを食用と記してしまったもの（『小学館の図鑑NEO きのこ』）から、電話番号の数字の一つが間違っていただけというもの（『地球の歩き方 JAPAN 04 島旅 利尻・礼文』）までさまざまである。稀な例として、「金融検閲」に合わせて表現を修正したと推測されるケースがあった（『あくまでクジャクの話です。』）。

上記以外のうち17点は、修正刷のないまま「タイトルごと書店から消えた本」である。ほとんどは、誤情報か盗用という理由のため、または著者の経歴詐称という理由のため（『魂の旋律』『ポケットの中の宇宙』）である。このほかの理由に、著作権者同士のトラブル（『キャンディ♡キャンディ』）、他の本に「似ている」から（『島津奔る』）、というのがあった。

残りの4点のうち、2点は出版継続の危機に陥りながらもなんとかそれを乗り越えて、今日まで販売され続けている「書店から消えなかった本」である（『宴のあと』『完全自殺マニュアル』）。もう1点は「書店から消えかかっていた本」で、発行から数年経過していたことが刑事事件の被告に無罪をもたらした（『医師・研究者が認めた！私がすすめる「水溶性キトサン」』）。最後の1点となる『言語別聖書集成』は、特殊な目的のためにごく少部数だけ製作されたと考えられている本であり「そもそも書店で売られたと言えるのか」というのが問題となった。

これらの本はもはや手に取って見ることのできない貴重書なのだろうか。そうではない。いくつかは古書市場でプレミア価格となっていて、入手し難いものがあることは確かである。だが、閲覧するだけでよいならば、複数の図書館の蔵書を根気よく探すことで見つけられる。この展示会では、紹介されている本の貴重さではなく、書店から消えてしまった事情のほうを知って驚き、楽しんでいただきたい。

日本大学文理学部資料館 2026年9月